

震災の記憶永遠に 県読売会が写真展

中央区である

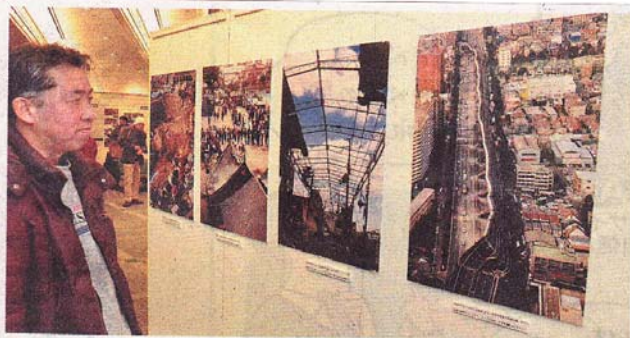
読売新聞販売店で組織する県読売会は16日、神戸市中央区の神戸クリスタルタワーで、阪神大震災と東日本大震災の報道写真を集めた「読売新聞写真展」を開催



の記憶を永遠に」を開催する。

16日にタワー内で開催される「ひょうご震災20年 ボランティア活動フォーラム」に合わせて企画。阪神大震災で焼けた商店街のアーケードや避難所での炊き出しなど、読売新聞のカメラマンが写した19枚を展示する。写真。Y.C青木代表の豊田英睦さん(42)は「震災を経験していない人も何が起きたかを知り、災害に備えてほしい」と話している。

パネル展は午前9時45分〜午後4時。



フォーラムの会場で開催された震災写真のパネル展(神戸市中央区で)

被災地支援長期に

中央区でフォーラム

16日、神戸市中央区の神戸クリスタルタワーで開催された「ひょうご震災20年 ボランティア活動フォーラム」(ひょうご震災20年 ボランティア活動調査検証・促進事業実行委主催、読売新聞社共催)では、専門家やNPOの代表らが被災地支援のあり方などについて討論した。

パネルディスカッションでは、神戸親和女子大4年

の笠原麻衣さんが東北でのボランティアの経験を紹介。「現地に足を運び、『忘れていない』と伝えることが大事だ」と述べた。

フォーラムには東日本大震災の被災者らも参加。宮城県名取市の仮設住宅で暮らす住宅設備業・長沼俊幸さん(52)は「神戸にも東北にも、長期的な支援が必要だということを実感した」と話していた。

会場では、読売新聞のカメラマンが阪神大震災と東日本大震災の被災地で撮影した写真。パネル19枚も展示された。